

大学の勉強って役に立つの？

みなさんが大学で日々勉強していることは、どんなふうに関係するのでしょうか？
また、みなさんが大学生であるということに、どんな社会的な意味があるのでしょうか？
今回は、民間企業と大学をともによく知っておられる高見さんに、企業が若者に期待すること、企業が大学に期待することをお話いただき、大学という場がもつ意味について改めて考えてみたいと思います。また、理工系の研究教育職における仕事と家庭の両立などについても伺ってみたいと思います。

演題: **大学生として理工系の道を楽しむ方法**

日時: **2019年4月29日(月)**

5限目(17:00~18:30) 16:45開場

場所: **南山大学B45教室** ※申込不要

対象: **南山大学に所属する大学生・大学院生**

講師: **高見勲氏** (たかみ・いさお)
(元南山大学理工学部機械電子制御工学科・教授)



1948年生まれの団塊の世代です。同級生がたくさんいて、大学紛争や経済成長を体験しました。長い間企業で働いていました。その間、多くの若者と一緒に仕事をしました。その経験から、大学や大学生に対する考えを話します。一言でいえば皆さんが思っている以上に、企業は若者に優しく、期待しているということです。

企画・コーディネータ: **奥田太郎** (南山大学社会倫理研究所)

本セミナーは、南山大学社会倫理研究所(しゃりんけん)が主催する「学生のためのトークセミナー」です。妊娠・出産の話や、環境問題、労務問題など、社会には、通常の授業では学びきれない課題がたくさんあります。そのため、本セミナーでは、社会人になる前に知っておきた方がよいこと・考えておいた方がよいことを、各分野の専門家がわかりやすく解説し、さらに参加者のみなさんとのトークセッションを通じて双方向から議論します。